

乳腺科

薬物療法・個別化治療・乳がん看護
認定看護師常駐

● スタッフ (平成27年10月1日現在)

診療科長 石川 孝
医局長 海瀬 博史
病棟医長 細永 真理
外来医長 木村 芙英

医師数 常勤 10名
非常勤 4名

● 診療科の特徴・特殊性

- 特徴：**
- 1) 横断的カンファレンスによる手術前・後の治療方針の決定
(乳腺科医・病理医・放射線診断医・技師・形成外科医の参加)
 - 2) 手術：リンパ節に対するアプローチとしてセンチネルリンパ節生検を積極的に導入して不要なリンパ節郭清を回避する。
乳房に対する術式は根治性と整容性を配慮し決定している。
乳房再建：乳房切除症例に対しては形成外科内に乳房再建専門医が常勤し、乳房再建(自家組織・人工物)を提示できる体制を整えている。毎月合同カンファレンスを開催し、翌月の乳房再建症例の検討・共有化を図っている。
 - 3) 化学療法 個別化治療を行っている。
 - ①術前化学療法：HER2陽性・トリプルネガティブにおいては術前化学療法を積極的に取り入れる。
 - ②術後治療：ガイドラインに沿った標準治療を中心に行っている。
 - ③再発治療：患者主体に治療戦略を考え最善の治療を提供する。
 - 4) 治験・臨床試験に積極的に参加しエビデンスの構築をめざしている。
 - 5) 緩和治療科・医療連携室と密に連携を取り、再発患者に対する Best Supportive Care をチームとして実践している。

特殊性： 男性乳癌は全体の0.5%でありほとんどは女性を対象とした診療科である。

2016年の新規乳がん罹患患者数は約9万人と推定され日本人女性のがん罹患第1位である。

年齢層は40歳から60歳代が圧倒的に多く、子育て・職場など社会的にも中心となる女性を対象とすることになる。2016年発表された10年生存率は80%と良好で有るが、術後再発予防治療をほとんどの患者に行うため、十分な専門知識が要求される。

アピールポイント： チーム医療の実践

外科手術—整容性を重視した乳がん手術

● 診療体制と実績

診療体制： 外来では、初診・術後フォロー・再発治療・化学療法(化学療法センター)・乳房再建(形成外科乳房再建外来)を上級医を中心に全医局員で対応している。
入院では、個別の受持ち体制は取らずに医局全体で診療にあたっている。このため、カンファレンスを頻回に行い情報の共有化を徹底している。

● 診療実績：(平成27年4月～平成28年3月)

外来	年間初診患者数	1,409名
	年間再来患者数(延べ人数)	18,799名
入院	入院件数(延べ人数)	523名
外来化学療法	(延べ人数)	1,934名
手術件数	総数	297件
	乳がん手術	258件
	良性腫瘍	39件
	乳房：乳房切除	133件
	同時再建：一次一期再建	8件(広背筋皮弁)
	一次二期再建	36件(人工物)
	乳房部分切除	125件
	リンパ節：腋窩リンパ節郭清	66件
	センチネルリンパ節生検	186件